

## 2020-2 経営協議会議事概要

日 時 令和2年7月16日(木) 10:00~12:05

委 員 駒田学長(議長)

加藤, 志田, 高木, 二井, 西岡, 向井, 渡辺

緒方, 尾西, 梅川, 伊藤(公), 楠井, 伊佐地, 大高 各委員

列席者 富樫, 野崎, 橋本, 西村, 今西, 吉松, 吉本, 富本 各副学長  
服部監事, 山中監事

### ◎新規委員等の紹介

学長から, 新たに就任した委員, 陪席者の紹介があった。

### ◎議事概要の確認

2019-5, 2019-6及び2020-1の議事概要(案)について, 了承された。

## I 審議事項

### 1. 令和元年度決算報告について

大高事務局長から, 令和元年度決算報告に関し, 「資料: 審-1」に基づき, 財務諸表, 決算報告書及び事業報告書についての説明があり, 審議の結果, 原案どおり承認され, 今後役員会において決定し, 文部科学省へ提出することとした。

#### <主な意見>

- 大学が抱えている財務的な課題についてお聞かせ願いたい。
- 運営費交付金が減り続ける中で, いかに外部資金を獲得していくかが最も重要であると考え。文部科学省などが公募する各事業に積極的に申請していくほか, 地域連携をさらに進め, 共同研究や受託研究などの研究面に加えて, 教育面でも企業などと連携していきたい。大学としても教育に関して様々な取組みを行っているが, それが社会のニーズと合致しているかを常に意識し, 迅速に対応するための組織, 運営体系が必要であると考え。
- 受託研究について, 昨年度から2年続けて収入より費用の方が多くなっている。研究は年度を跨ぐケースもあるため, ある年度において費用の方が多くなることも考えられるが2年続けてというのは傾向としてよろしくないのではないか。
- 受託研究は一つ一つが独立した会計になっており, マイナスで使い込むということはできないことになっている。費用が多くなっているのは, 一つは期ズレの問題, もう一つは受託研究に携わる教員, 事務職員の経費を

受託研究の費用に計上しているためであり、原価割れしているものではないと考えている。

## 2. 令和3年度概算要求事項（案）について

大高事務局長から、令和3年度概算要求事項に関し、「資料：審-2-1」に基づき、概算要求の方向性の概要及び三重大学機能強化促進構想について、「資料：審-2-2」に基づき、令和3年度概算要求の方向性に関する文部科学省からの通知についての説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

なお、概算要求の提出については学長に一任願いたいこと、また、提出した内容については次回の本会議において報告する旨の発言があり、了承された。

### <主な意見>

- データサイエンスについては、高校生の間でも非常に関心が高まっていることから、データサイエンス人材の育成について注力いただきたい。
- 本年4月に数理データサイエンス館を開館して数理・データサイエンス教育の環境を整備したほか、教養教育においてデータサイエンスに係る授業科目を設けるなどのカリキュラム再編も計画している。全学生が、データサイエンスに関する一定水準の知識・理解を修得できるよう、大学全体で情報教育の改革に取り組んでいる。

## 3. 第3期中期目標期間の4年目終了時評価に係る実績報告書（案）について

尾西理事から、「資料：審-3-1～3-5，参考資料1」に基づき、第3期中期目標期間の4年目終了時評価に係る実績報告書（案）の概要並びに今回の法人評価についての説明があり、審議の結果、原案どおり承認され、今後役員会において決定し、文部科学省へ提出することとした。

また、提出までに精査を行うこととし、文言等の修正があった場合は学長に一任願いたい旨の発言があり、了承された。

## II 報告事項

### 1. 令和2年度入学志願者数等及び令和2年度学生数（5月1日現在）について

富樫副学長から、「資料：報-1」に基づき、令和2年度入学志願者数等及び学生数について、入学志願者数・志願倍率・学部別入学率の推移、出身県別志願者・入学者の状況、入学者男女比・県内外比、学生数・休学者数・退学者数・留年者数の人数・比率・推移、研究生・科目等履修生数、特別プログラム等への受入者数等の報告があった。

### ＜主な意見＞

○高校の現場に携わる者の印象として、三重県内の高校生から見た三重大学は、近隣の県からの志願者も多く、競争が激しいため入りにくい大学というイメージを持っている。一方で、特に中勢、南勢、伊賀、東紀州といった地域にとっては、三重大学は重要な地域人材育成の拠点であり、高校生の進路の選択先である。今年の高3年生は、「高大接続改革」の一期生にあたり、地域と連携した探究学習などをかなり行ってきている。そこで培われた主体性や意欲をぜひ評価いただきたい。

→三重県で頑張りたいという意欲・志と大学で学ぶための学力、これらのバランスが大切だと考えており、それを兼ね備えた学生を求めている。より多くのそういった学生に入学してもらうため、入学定員を増やすことも選択肢の一つとして検討していく。また、逆に高校生や高校の先生方に進学先として三重大学を選んでもらえるよう、魅力的な大学にしていきたい。

### 2. 令和元年度就職状況について

野崎副学長から、「資料：報-2」に基づき、令和元年度就職状況について、地域別就職状況及び就職率、産業別就職状況、都道府県別就職状況、学部別就職状況、三重県内への就職率推移、三重県出身者の就職先地域別内訳、三重県への就職者の出身地域別内訳の報告があった。

### 3. その他

#### (1) 次回開催について

2020年9月18日（金）13：30から開催することを確認した。

## Ⅲ 意見交換

### 1. 三重大学新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

富本副学長から、「資料：意-1、参考資料1」に基づき、本学における新型コロナウイルス感染症拡大防止対策についての説明があった後、種々意見交換を行った。

### ＜主な意見（新型コロナウイルス感染症拡大防止対策関係）＞

○新型コロナウイルス対策については、高校の方も苦心している。今後は大学入試も控えており、その対応に大学と高校が協同していく必要があると思う。

→入試は非常に大きな問題であり、本学も文部科学省や国立大学協会からの指針を受けて対応を検討中である。公平かつ安全に実施することが重要であると考えおり、高校側にもできる限り早く情報提供する。

○現在の感染は、都市部・若者が中心であるが、地方・高齢者へと感染が拡

大してきた場合、三重県でも非常に厳しい状況になってくる。秋・冬になってインフルエンザが流行してくると、さらに対応が厳しくなり、特に附属病院との連携が重要になってくるため、ぜひご協力いただきたい。

○配付資料のとおり、知事からも、「コロナ患者受入病床の確保や、帰国者・接触者外来の設置をはじめ、本県内の新型コロナウイルス感染症拡大防止に多大な貢献をいただいていることに感謝する。また、他府県の大学や病院における感染事例等をふまえた貴学独自の感染防止策を積極的に導入され、学生や医療従事者はもとより、広く県民を守る取組を実施されていることに敬意を表する。

現在、本県では、県民の命と健康を守りつつ、暮らしと経済を再生し、活性化していくための取組を「みえモデル」として、とりまとめ推進している。この取組を推進していくためには、何よりも医療提供体制を充実させながら、「新しい生活様式」を日常のものとし、私たち一人ひとりの対応を進化させていく必要がある。

本県においては、去る7月10日に、4月24日以来の新規感染者が確認された。引き続き気を緩めることなく、感染防止対策を徹底していく必要がある。」との意見をいただいている。

○三重大学は、全国的に見てもかなり早くからオンライン講義を取り入れているが、先生方もまだまだ不慣れで、試行錯誤を繰り返しながら取り組まれていると思う。講義の質を担保する意味でも、オンラインをうまく活用している事例を検証し、好モデルとして学内で展開してはどうか。

また、コロナ禍においては、学生の留年や休学、退学のリスクが高まると考えられるが、実際にコロナが理由で留年等が増えたとなつては、学生へのサポート体制が問われることにもなりかねないため、大学として対応を検討いただきたい。

→学力面・経済面・心理面において様々なサポートをしているが、さらにアンケート調査も実施して、サポートの効果についても検証を行っている。検証結果をもとに、さらに効果的なサポートを検討・実施していきたい。

○コロナの影響で出張や会議が減り、様々な業務がオンライン対応となったことで、これまで当たり前になっていたことが本当に必要だったのかという気付きが非常に多かった。大学においても同様と思われるので、コロナ後も活かせるものは活かし、業務の合理化・効率化を進めていただきたい。

○企業の採用活動も、オンライン面接を取り入れるなど従来のものと全く異なっており、就職活動をする学生も非常に困惑していると思われる。大学としても、実態を踏まえたサポートが必要だと思う。

<主な意見（上記以外）>

○大学として外部資金を集めようという意識が低いように感じる。大学が企業を育て、または大学発の企業がどんどん出てきて、そこから資金を得る

といったような積極的な姿勢・取組みがあまり見られなかったのが残念な点である。

- 大学予算に占める外部資金の割合は5%程度であり、この数字をもっと上げていくことが課題であると認識している。一方、特許収入はこの2年で1億を超えており、全国公私立大学の中でもトップ10に入っている。予算全体に占める割合はまだまだ小さいが、今後も注力し、強みを伸ばしていきたい。
- 大学運営において病院が占める割合は非常に大きいことから、病院監査研究会でマニュアルを作っていくというのは、非常に良い取組みであると思う。

以上